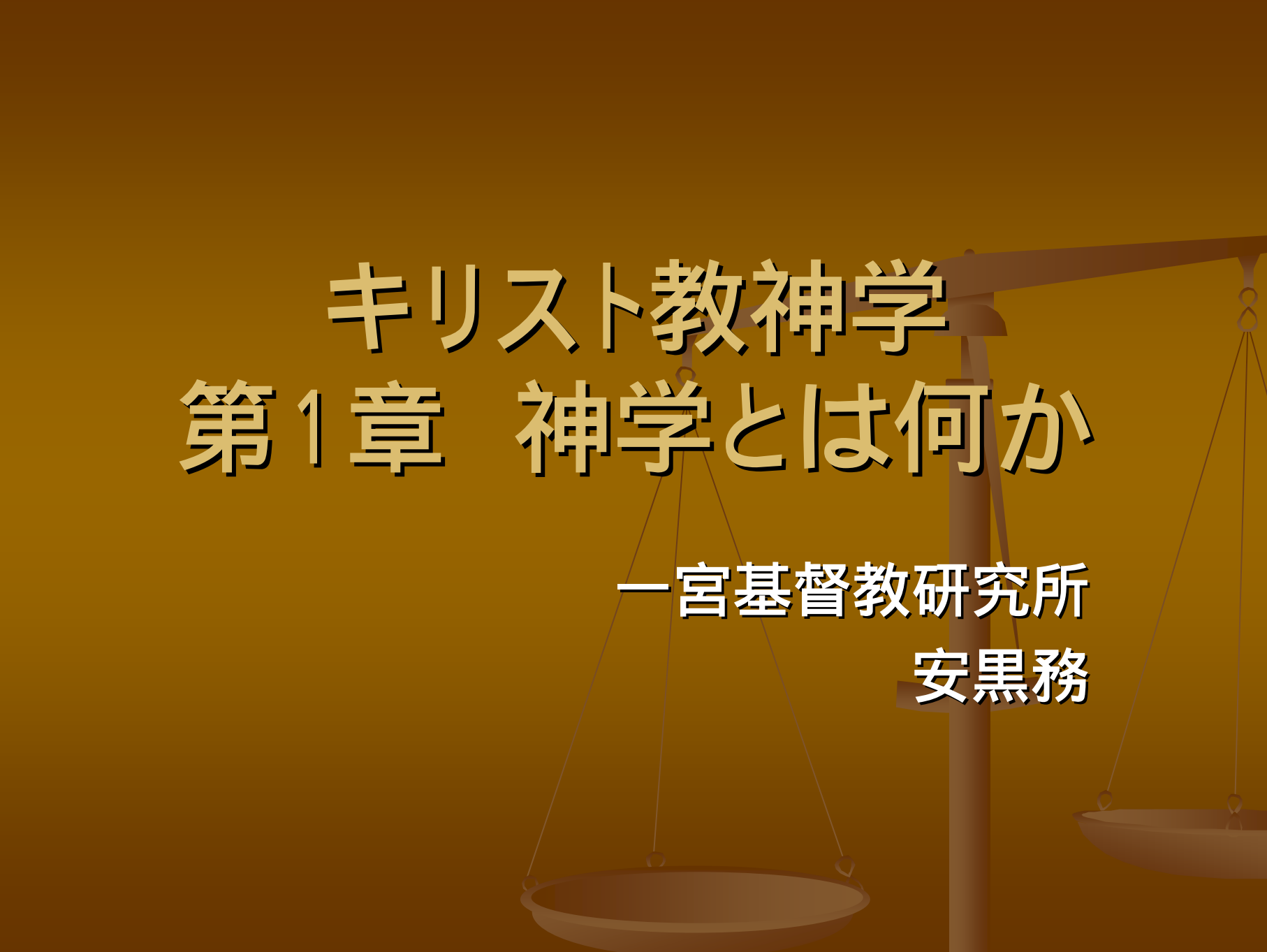


A faint, stylized illustration of a balance scale is visible in the background. The scale is tilted, with the right pan being higher than the left pan. The pans are simple, shallow bowls. The entire image has a warm, brownish-gold color scheme.

キリスト教神学

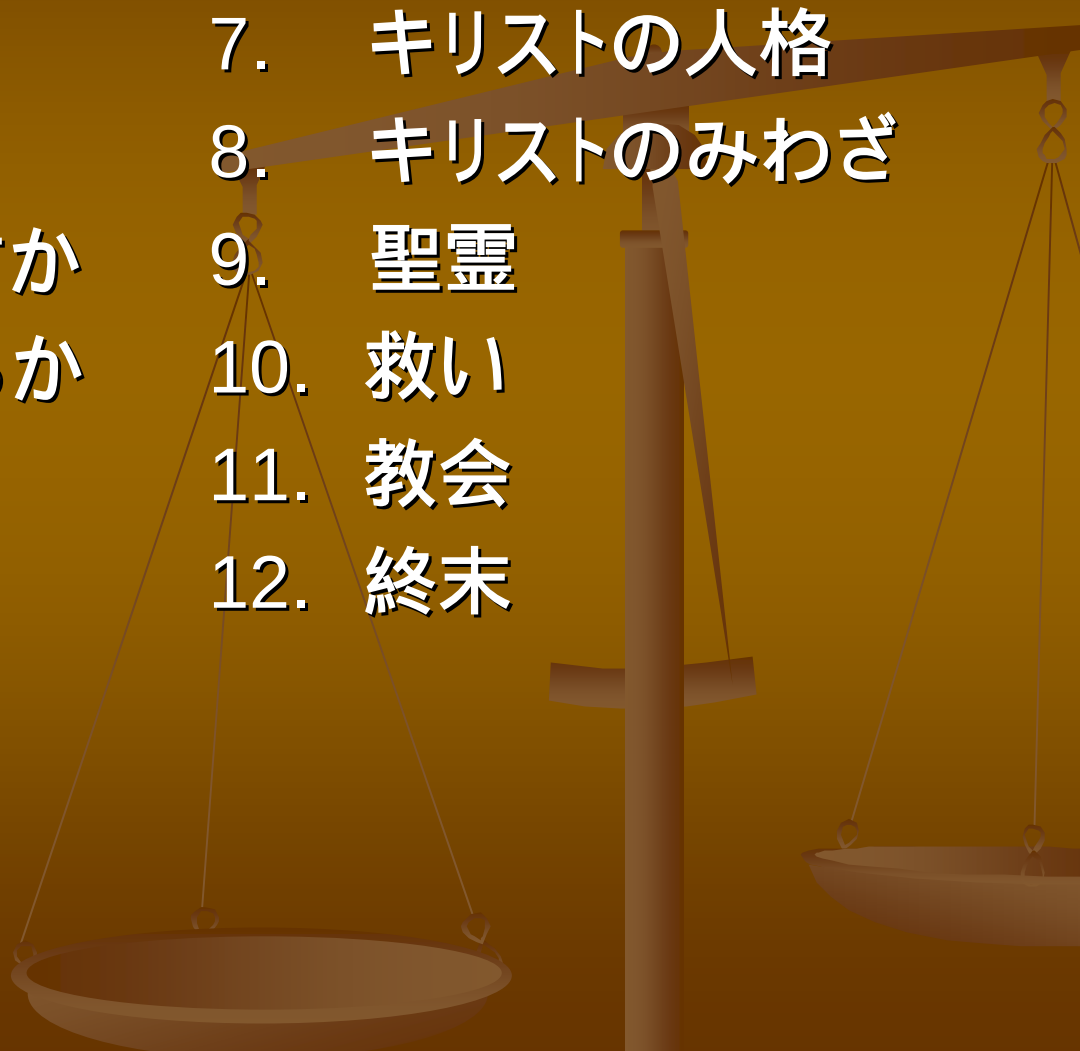
第1章 神学とは何か

一宮基督教研究所
安黒務

「キリスト教神学」 概略

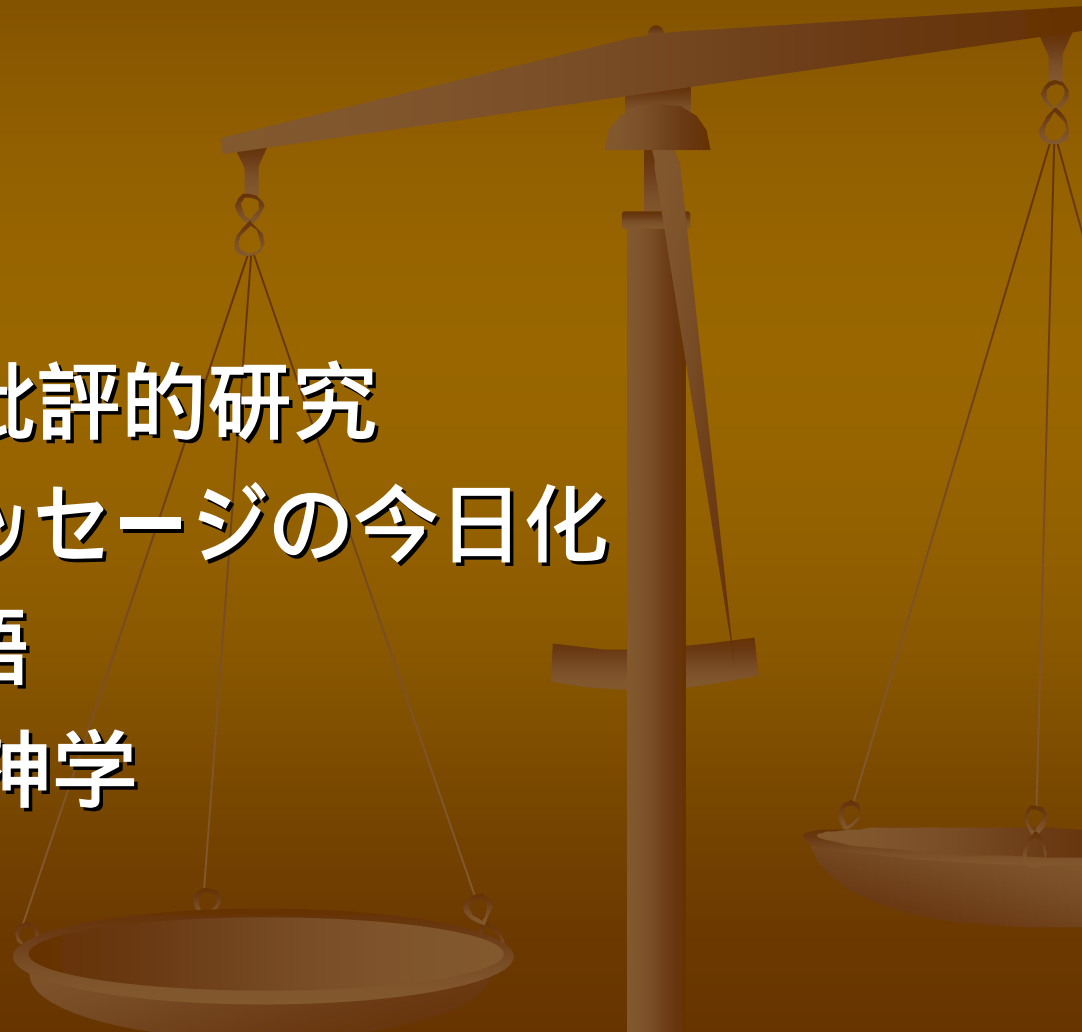
1. 神を研究すること
2. 神を知ること
3. 神はどのような方か
4. 神は何をなされるか
5. 人間
6. 罪

7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

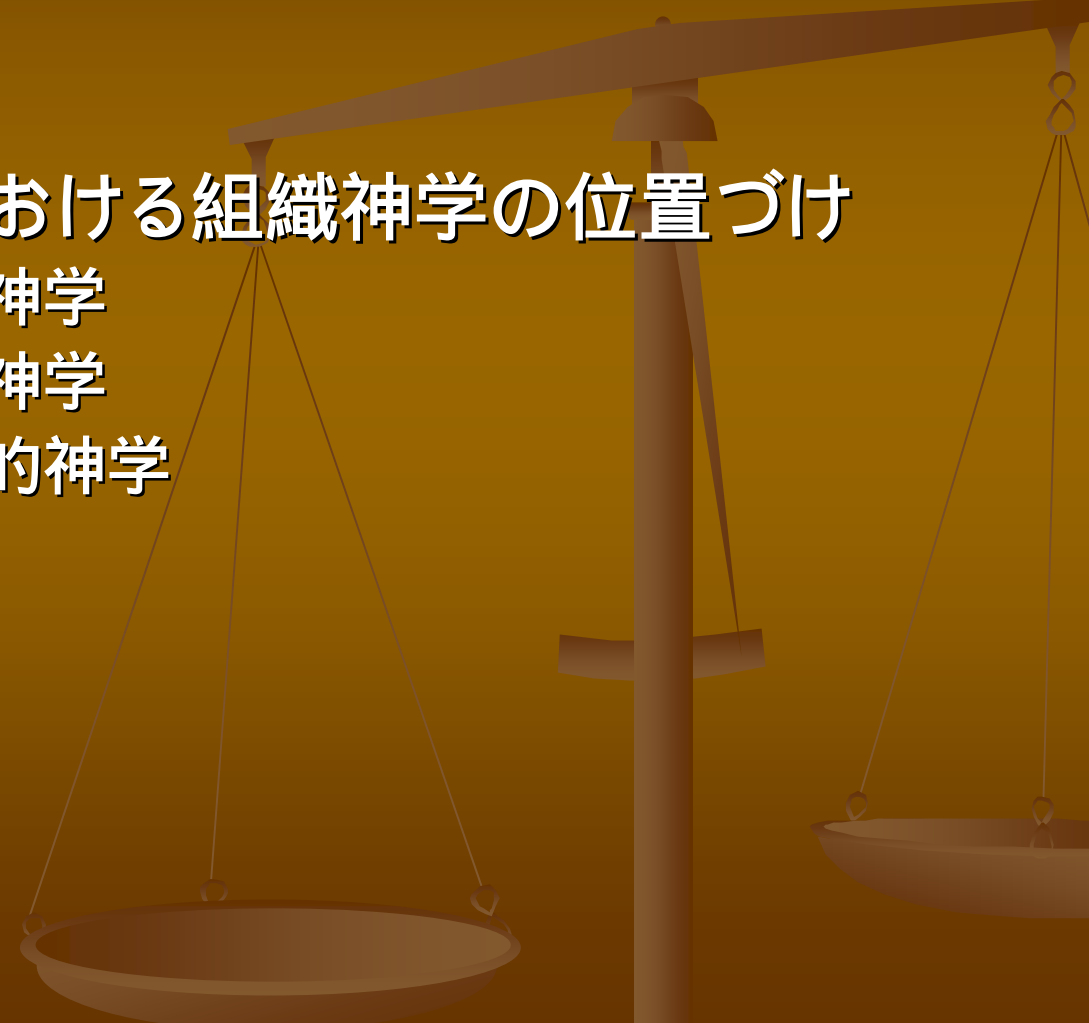


第1部 神を研究すること 概略

1. 神学とは何か
2. 神学と哲学
3. 神学の方法
4. 神学と聖書の批評的研究
5. キリスト教のメッセージの今日化
6. 神学とその言語
7. ポストモダンと神学



第1章 神学とは何か 概略

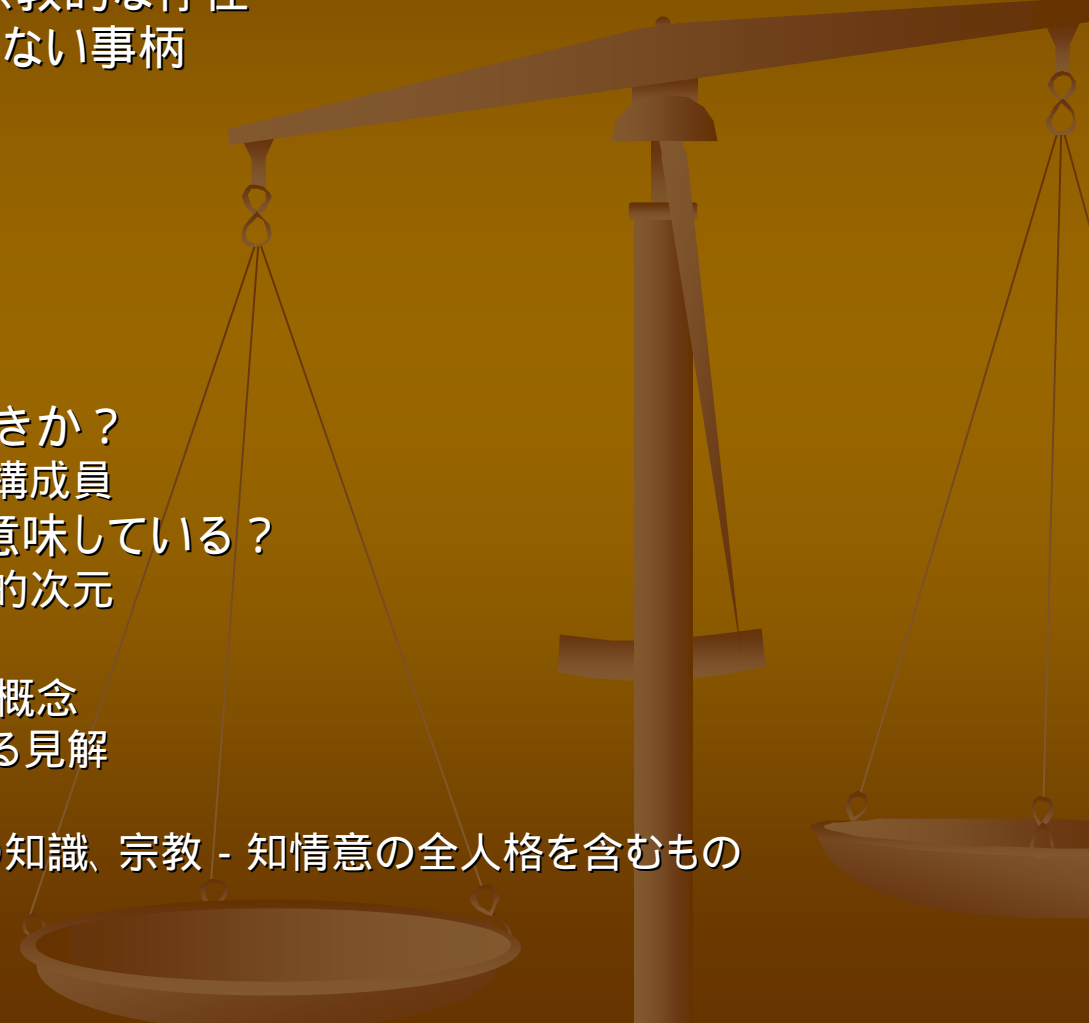
1. 宗教の本質
 2. 神学の定義
 3. 神学の組織図における組織神学の位置づけ
 1. 組織神学と聖書神学
 2. 組織神学と歴史神学
 3. 組織神学と哲学的神学
 4. 神学の必要性
 5. 神学の出発点
 6. 学としての神学
 7. なぜ聖書なのか
- 

序

1. 本章の目的
2. 本章の概容
3. 研究課題

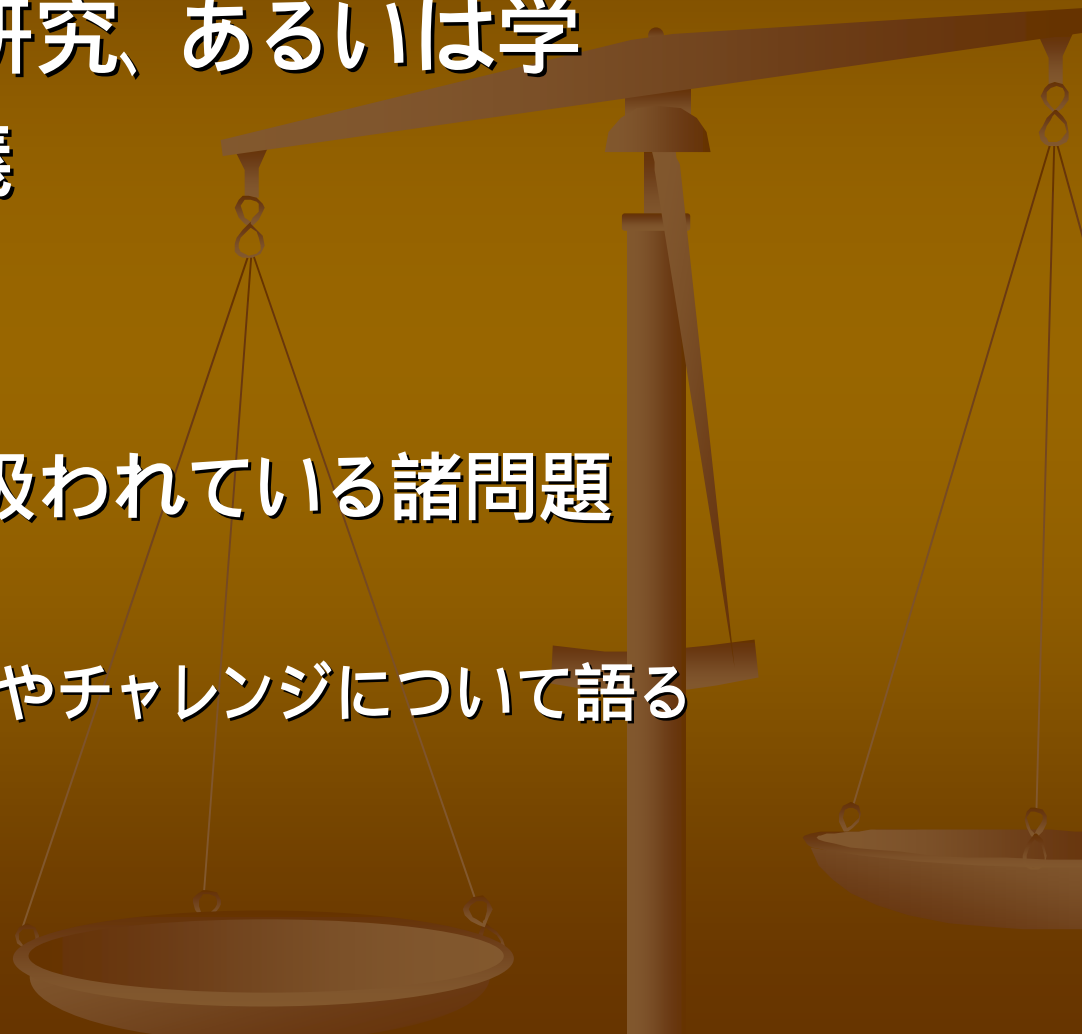


第1節 宗教の本質

1. 人間 - 癒しがたいほどに宗教的な存在
 2. 定義できる者がほとんどいない事柄
 3. 共通した特徴
 1. 世界観・人生観
 2. 信条・教義
 3. 世界観としての性格付け
 4. 宗教の位置づけに変化
 - カントの著作への反動
 5. 宗教をどのように捉えるべきか？
 - 指導者の名のもとにある構成員
 6. キリスト者であるとは何を意味している？
 - 信仰箇条、諸経験、社会的次元
 7. 神学の宗教に対する関係
 1. 神学に関する他の違った概念
 2. 宗教を主観的なものとみる見解
 3. 文化的言語的見解
 4. 教理 - 神についての真の知識、宗教 - 知情意の全人格を含むもの
- 

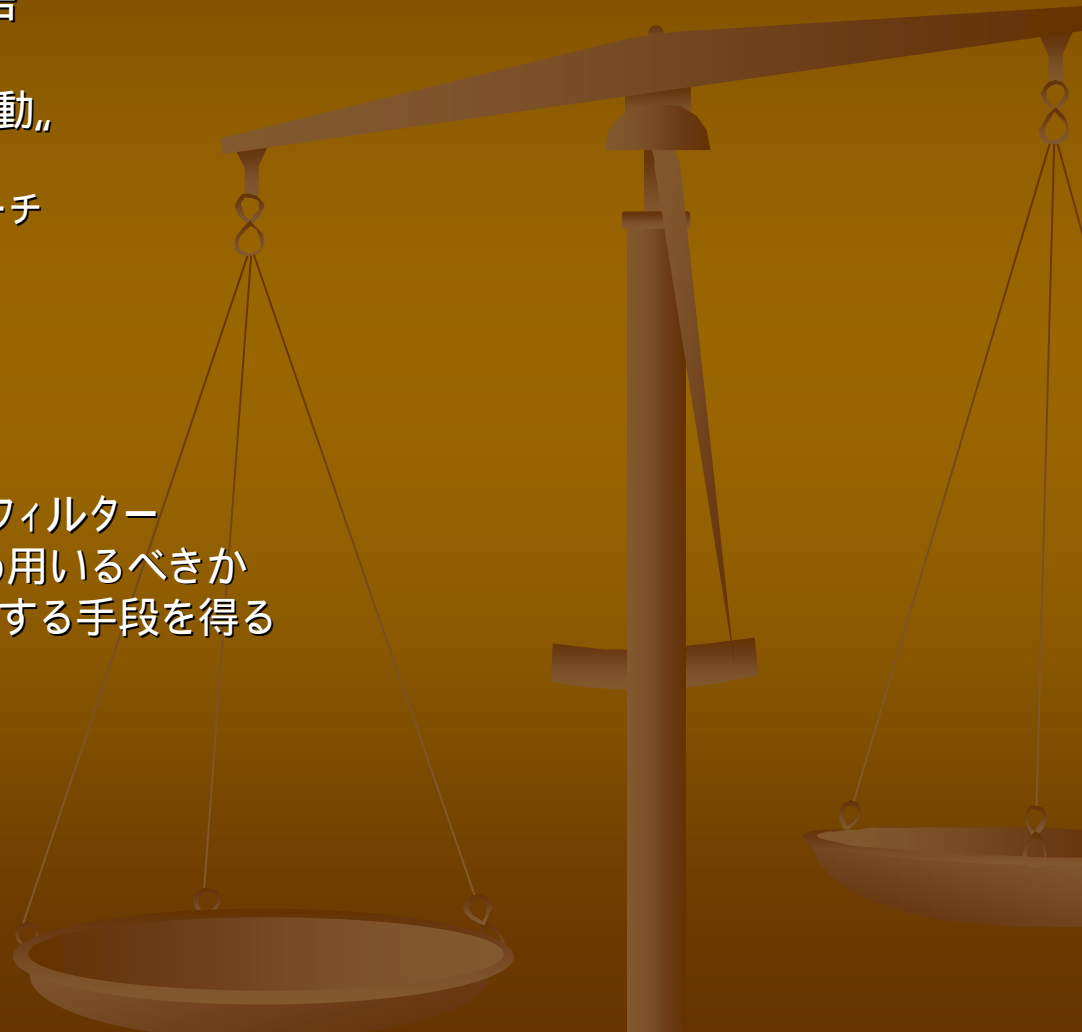
第2節 神学の定義

1. 神についての研究、あるいは学
2. より完全な定義
 1. 聖書的
 2. 組織的
 3. 文化と学問で扱われている諸問題
 4. 今日的
 - 直面する問題やチャレンジについて語る
 5. 実際の



第3節 神学の組織図における 組織神学の位置づけ

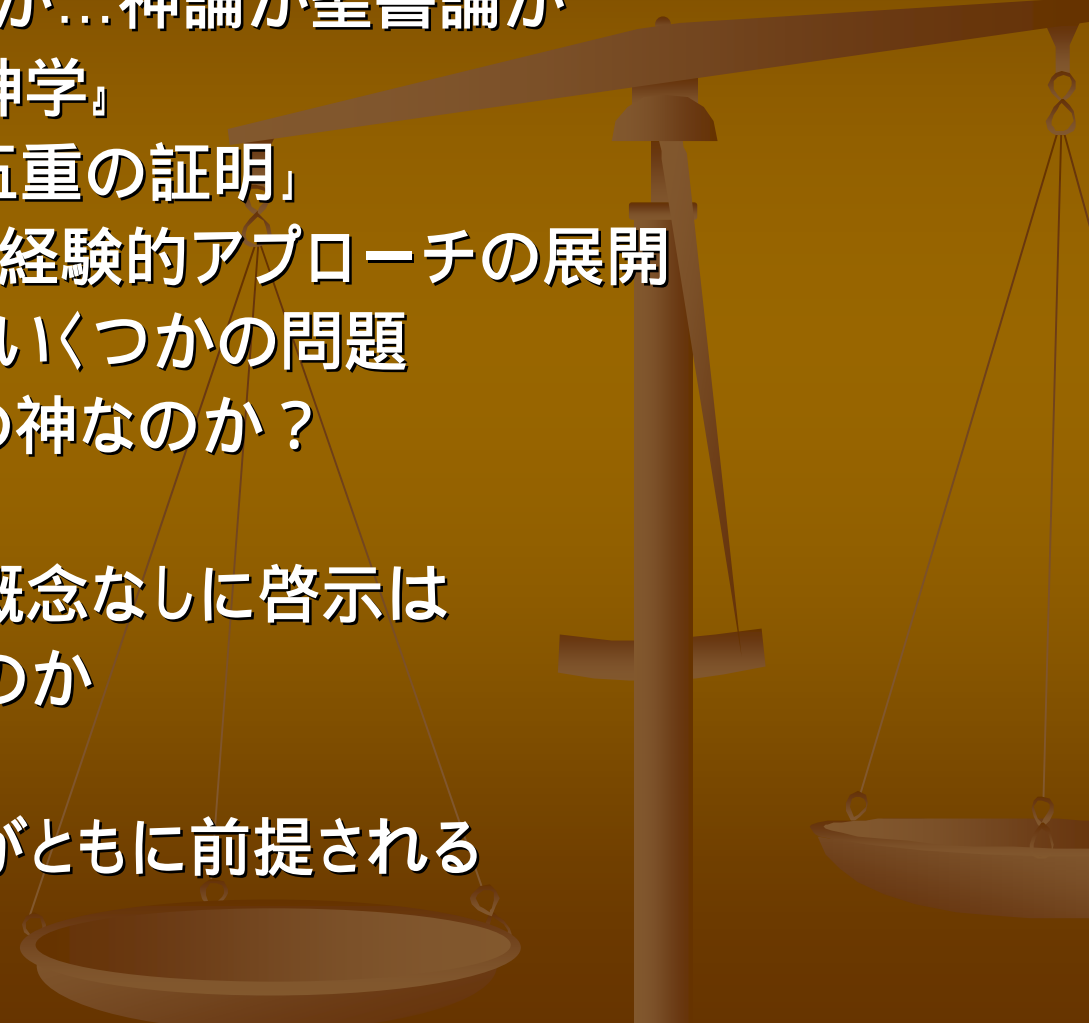
1. 広範囲に使われている用語
2. 組織神学と聖書神学
 1. 聖書神学と呼ばれる “運動”
 2. 聖書の神学的内容
 1. 純粹に記述的なアプローチ
 2. 「真の」聖書神学
 3. 聖書的な神学
3. 組織神学と歴史神学
 1. 共時的アプローチ
 2. 通時的アプローチ
 3. 「先入観」「前理解」というフィルター
 4. 時代のイデオロギーをどう用いるべきか
 5. 思想や主張について評価する手段を得る
4. 組織神学と哲学的神学
 - 哲学の神学への貢献
 1. 内容を提供
 2. 弁護、あるいは確証
 3. 概念や議論を吟味精査



第4節 神学の必要性

- イエスを愛しているなら十分ではないのか？
 1. 信仰者と神との関係...正しい教理的信条が不可欠
 1. キリストの神性
 2. キリストの人性
 3. キリストの復活
 2. 真理と経験は相互に関係
 3. 宗教と信仰を脅かすさまざまな批判
 - 銀行員が偽札を見分ける技術

第5節 神学の出発点

1. どこから始めるべきか...神論か聖書論か
 2. ストロングの『組織神学』
 3. トマス・アキナス「五重の証明」
 4. 合理的アプローチと経験的アプローチの展開
 5. アプローチにおけるいくつかの問題
 6. 確証された神はどの神なのか？
 7. 聖書から始めること
 8. 神についての先行概念なしに啓示は
 9. 聖書はなぜ啓示なのか
 10. 両方から始めること
 11. 神と神の自己啓示がともに前提される
- 

第6節 学としての神学

1. 神学は“学”と呼ぶに値する学問？
2. アウグスティヌス：「知識」よりも「知恵」と
3. アキナス：すべての学問の女王
4. 学として認定する判断基準が厳密に
5. 神学のジレンマ
6. ショルツの六つの基準
7. 知識についての伝統的な基準
8. 他の諸学と共通する領域
9. 神学は独自の位置を占める

第7節 なぜ聖書なのか

1. なぜ、聖書を第一次資料に？
2. すべての組織・制度には明確な基礎が
3. キリスト教は組織ではなく運動
4. キリストに従う形で展開される運動
5. 創始者の概念の再解釈・再適用
6. 寸分違わない表現形式での継承ではない
7. 一般啓示は第二義的な資料として